壱岐新報
5月11日（金）
発行所　壱岐新報社
〒811-5136　長崎県壱岐市郷ノ浦町片原触247-7
TEL/FAX 0920-47-3196
ikisinpou@oboe.ocn.ne.jp
HP ikishinpou.com
発行　毎週金曜日
購読料 1ヶ月1,000円（税・送料込み）
編集長　武田嘉人

学校施設耐震化計画を見直し 副市長は2人体制へ

市議会定例会5月会議

市議会定例会5月会議が1日に開かれ、小中学校4校の耐震化工事費など約3億円を盛り込んだ一般会計補正予算案など6議案を可決、専決処分1件を承認し閉会した。補正予算を加えた本年度一般会計予算の総額は194億1千万円。

一般会計補正予算案に盛り込んだ小中学校の耐震化工事について、市は27の校舎と体育館を耐震化する平成24年度から27年度までの計画を示したが、校舎、体育館のIS値（耐震指標）に関係ない順序で耐震化する計画案だったため、議員から「工事の順序の根拠を示すべき」とする意見があり、白川博一市長はIS値が低いところ、校舎、体育館の順に見直したい考えを示した。須藤正人教育長も「25年度以降の工事は再度検討する」と見直しする考えを示した。

2期目の初議会となる白川市長

市の計画案で示されたのは「IS値」が0・180～0・695の27施設で、IS値が高いほど耐震性能が高い。その中で芦辺中学校はIS値が0・254と比較的低いにも関わらず、27年度施工とを前に牧永護議員が「壱岐市の人口が3万人を割り、財政状況も厳しい中、職員も100人程度削減され、仕事もピークに達している。能力ある副市長を任命され、職員を適材適所に配置し、現在のままでやるべきい」とした。

同会議では、副市長の定数を1人から「2人以内」に変更する条例改正案も可決。採決の結果、牧永、呼子好両議員を除く議員が賛成して可決した。

副市長は、任期満了に伴い久田賢一副市長（61）が4月29日付けで退任しており、現在、欠員となっている。

また、4月1日で皮膚科が専門の猿渡邦彦医師（69）を採用したことに伴い、かたばる病院（48）に皮膚科を新設する条例改正案も可決した。

調理は文化センターの調理室で行い現在、約60人分を作っている。弁当には手紙を添え、民生委員を通じて1個200円で配達されている。多い時は100人の利用者があったという。

中村代表（84）は「和気あいあいとした中にも、会員一人ひとりが自立して、お互いにできることをやってきたのが長く続いた要因。美味しかったという声を励みに調理していきたい」と語った。

なっていた。

また学校の耐震化に関連し、議員から複式学級の解消を目的とした小学校の統廃合を行うべきとする指摘もあり、白川市長は「耐震化をして耐久性が高まれば、将来的に活用を図っていくという基本姿勢でいく。選挙期間中も慎重に進めると言ってきた。子どもの教育が第一。（統廃合を）やらないとは言っていない。地域の気持ちなどを大事にして進めたい」とした。

同会議では、副市長の定数を1人から「2人以内」に変更する条例改正案も可決。採決の結果、牧永、呼子好両議員を除く議員が賛成して可決した。

副市長は、任期満了に伴い久田賢一副市長（61）が4月29日付けで退任しており、現在、欠員となっている。

また、4月1日で皮膚科が専門の猿渡邦彦医師（69）を採用したことに伴い、かたばる病院（48）に皮膚科を新設する条例改正案も可決した。

久間武春氏らが来島 2期目の白川市長を激励

久間武春氏や赤木富廣氏、大川満治氏ら福岡壱岐の会の元会長や副会長らは1日に来島、2期目をスタートさせた白川博一市長を激励した。

久間氏は、「壱岐の島を沈ませるわけにはいかない。故郷の壱岐を非常に憂いている。白川市長には強力なリーダーシップの発揮と継続の力で、更なる壱岐の発展に尽くしてほしい」などと話し、これに対し白川市長は「福岡からふる里の壱岐を良くしようと思う気持ちは胸に刺さる。それほどの、島外に住む壱岐出身、関係者の皆さんのふる里振興への思いに応えるべく、壱岐をリードしていきたい」などと述べた。

白川市長と写真に収まる一行

27年間高齢者への弁当を調理
褒状・緑綬を受章、あゆみの会（勝本）

政府は28日付けで春の褒章の受章者を発表。本市から1人暮らしの高齢者らに配る弁当を調理する在宅福祉奉仕団体「あゆみの会」（中村節代表）が褒状・緑綬を授章した。

勝本町内の50～80代の主婦ら15人で組織する同会は昭和59年発足。発足当初は同町の社協やヘルパーとともに月1回調理してきたが、平成16年に利用者の声に応え第2、4水曜日の月2回にした。

あゆみの会のメンバー

24年度・総会など 八仙閣で6月10日 福岡壱岐の会

福岡方面に在住する壱岐出身者らが集う福岡壱岐の会（幡鉾賢輔会長）の本年度・定時総会が6月10日午前11時15分から、博多区、八仙閣で開かれる。

当日はふる里・壱岐からも多くの出席が予定され、恒例の特産品販売も予定されており、多くの参加が呼びかけられている。会費は5千円（子ども無料）。

参加申し込みなど詳しくは村井省三事務局長＝副会長＝（電話／FAX092～847～2774）へ

ひとしずく

それにしても大きなヒラマサ（平政）だった。大阪から1泊2日の壱岐への釣行で、初めて釣ったヒラマサが全長約130㌢、重量約22㌔の大物で、ワンチャンスを見事ものにして手にしたのだから〝超〟満足の1尾に違いない▼それに船長の経験と勘、テクニックで、40～50キロはあったというマグロの群れに近づき、餌の魚を捕食するため、海面近くに猛スピードで追い上げ、マグロが海面から飛び出したり跳ねまわる光景が、まさに目の前で繰り広げられたというのだから、何ともうらやましい。是非1度は見てみたい▼船長によると、20㌔もない目と鼻の先で、マグロが餌の捕食に湧くというのは珍しいことだそうで、「ウルトラチャンス」と笑顔で話し、「とにかくお客さんが、思い出になるような1尾を釣り上げてくれるとうれしいもの。時には宿で釣り方の特訓をすることもありますよ」と▼精悍というにふさわしいその大物が釣れた際、2番目のサイズだったヒラマサは、身のつき方が素晴らしく、見た瞬間に「分厚く筒切りにして、ステーキにして食べたい。うまそう」と思い、マジで売ってもらおうかと考えたほど▼さて、4日に遊漁船同士の接触事故が勝本沖であった。今、マリンレジャーでの海難事故防止などアピールする海上保安庁の安全推進活動が展開されている。まずは自己救命策の確保からである。

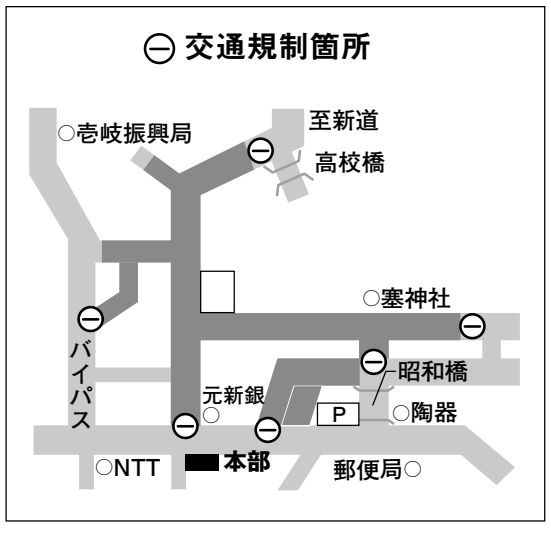
いきアイランドプレス
ISLAND PRESS
壱岐の島の観光＆タウン情報誌
壱岐の魅力、風景、文化、歴史、そして人の温かみと笑顔、島で生きる今の姿を記録と記憶に残したい…。次から次へと情報が通り過ぎていく今だからこそ、大切なモノを残したい…。これがアイランドプレスの考えです。
ホームページ iki-islandpress.jp
TEL 090-2503-6233

郷ノ浦名物 八日市のお知らせ

【日　程】五月十三日（日）
午前七時～午後五時

【場　所】高校橋より本間通り、前下ル町、賽神社前通り、中央橋駐車場付近、右の区間、諸車通行止め（歩行者天国）
昭和橋より農協武生水支所に至る間

【交通規制】時間…午前五時～午後七時
場所…別図の通り迂回路
（八畑―NTTに至るバイパス、高校橋―若松線）



【バスの回走路】古川クリーニング店前―盈科小学校―壱岐振興局―バイパス―九郵ターミナル Uターン

【バスの起点】臨時バス停留所（NTT前）

【バスの終点】新道バス停

【催　物】農協武生水支所横
永田川駐車場

◎お客様へお願い

《定期バス便を努めてご利用下さい。》

当日は、壱岐市郷ノ浦支所及び文化ホール駐車場の一部・旧公立病院跡地駐車場が開放されますが、収容台数に限りがございます。自家用車の駐車は極めて困難な状況となります。路上駐車は大変危険ですので絶対しないようにして下さい。

《歩きタバコはしないで下さい。》

※壱岐交通タクシー本町車庫は交通規制の為、商工会下駐車場に移転します。

※八日市は雨天決行します。

壱岐市商工会　郷ノ浦支所
TEL(47)0387